

はじめに

当冊子をお手に取って頂き誠にありがとうございます。

C 7 9から今回のC 8 4までの頒布物を合冊するにあたり、当サークルの生立ちと何故『書』に関する冊子を頒布するに至ったのか拙い文ですが少し述べたいとおもいます。

まず、当サークル（うぶんc h u !）は初め『書』と全く無関係な形でスタートいたしました。初参加はC 7 6からです。大学時の友人と卒業祝いという半分悪ふざけという乗りで参加しました。その際、頒布物の題材に苦慮した筆者は、卒業論文を拙いマンガで記述、コピー本を頒布することになりました。（初音ミクをキャラクターに砲内弾道学について解説した内容です）やはり、反応は乏しく、悪ふざけに近い作品では手にとって見ていただくことすらありませんでした。

その後、C 7 6ではアニメ『精霊の守り人』の続編短編を描きましたが、これまた自爆し、結局自分が何をしたいのか暫く悩みに悩みました。そもそも悪ふざけではじめたサークルはずなのに、自分の知識等を何かしらの知識で頒布するという行為が次第に好きになっていきました。しかし、頒布するからには今までのような付け焼刃のような内容では、皆様の理解は得られるはずありません。

頒布内容について悩んでいた時期、筆者が所属している書道会の昇段試験が開催されました。昇段試験は書道会から配付される試験内容に沿った書を間違いなく書くことができるかという内容です。昇段試験を受け真っ先に感じたことは、小学1年から現在まで続けているにも関わらず、書道の歴史やその背景についての考察などの

知識が全くといっていいほど不足していたことでした。それもそのはずです。それまで、ただ単に師匠の手本を見よう見まねで書き写し、筆運びなどの小手先しか身につけようとしていませんでした。つまり、大人になっても習字から抜け出せていなかったわけです。今まで自分は何をしていたのかと責めたくりましたが、受け身でしかいなかった筆者が自発的に書道に向き合っていくことに気付くことができたのです。もしかしたら、コミケに参加するという機会そのものがなかったら、書道は今も習字のままであり、今こうして『書』関係の冊子を頒布するというのもなかったのではないかと思います。

何かをきっかけに変化が現れる典型的な話ですが、改めて思うことは、コミケに参加し、頒布物が皆様の厳しい評価の目に晒さ、どうしたらよいのかと藻掻くことによって今の当サークルがあるのではないかと感じます。

さて、今回の頒布物についてですが、合冊という過去の焼き増しにみえてしまっていますが、今までの頒布物の内容を改め修正等してございます。

尚、本冊子の題名である『鳩首凝議』は“人々が集まり、額を寄せ合って熱心に相談すること”という意味です。合冊ということで、今まで頒布した作品を付き合わせ一つの作品とすることを目指し、この言葉を引用した次第です。厚かましいお願いではございますが、少しでもその努力を読み取って頂けたら幸いです。

末筆ではございますが、ここまでお時間を割いて読んでくださり誠にありがとうございました。次ページより本文をお楽しみください。

2013年8月 寿峰

カバーデザイン 寿峰

本文デザイン 寿峰

編集 寿峰

印刷・製本

印刷の通販 グラフィック

<http://www.graphic.jp/>





C79 (冬) 頒布

第一部	書の基本	・・・・・・	P-4
第二部	古典	・・・・・・	P-8
第三部	臨書	・・・・・・	P-12
終部	終結	・・・・・・	P-16



C80 (夏) 頒布

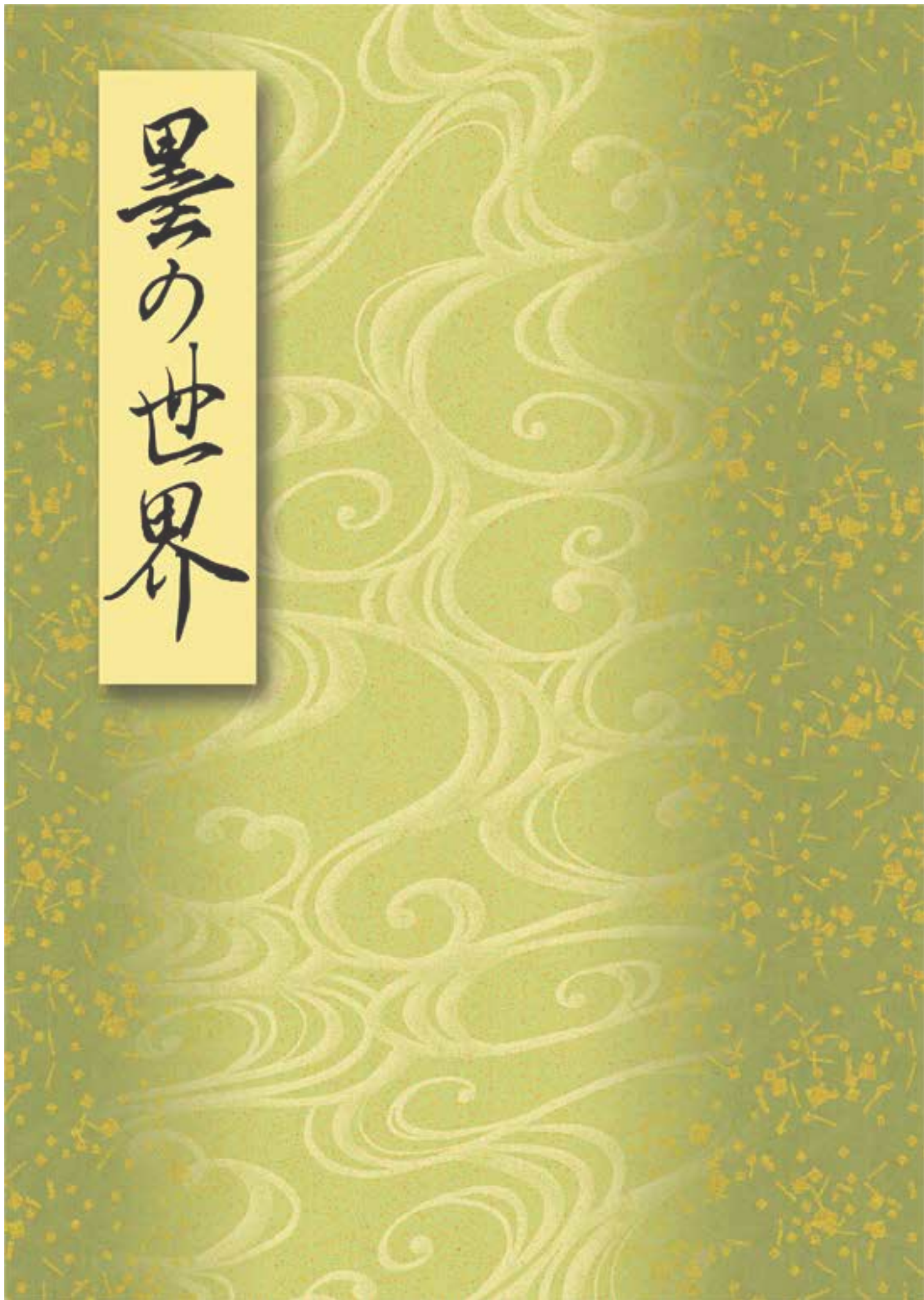
特集	東日本大震災における 東北の書道現状	・・・・	P-20
探索	ぶらり街散歩	・・・・	P-24
考察	王羲之の再考	・・・・	P-28
紹介	お勧め書道用具店	・・・・	P-32
書籍	Book Review	・・・・	P-34
報道	書体 News Watch!	・・・・	P-36



C82 (夏) 頒布

壱	アナログとデジタル融合	・・・・	P-38
弐	デジタル書道協会 四季の詩展	・・・・	P-42
参	実践!! デジタル書道	・・・・	P-44

曇の世界



“文房四宝”と“書の五體”

書道を学ぶにあたり、最低限必要な知識がある。

ここでは、各書体（楷・行・草）の歴史、書道に必要な道具を述べる。

1. 書道の学び
2. 文房四宝と書の五體

書道を学ぶ

はじめに

皆さんは、書道という言葉を知ると何を考えるだろうか。

字が達者な人が嗜む趣味と考える方が多いのではないだろうか。確かにその考えは間違っていない。また、このようにも考えるのではないだろうか。

「書道って字が上手くないとできないんでしょ？」

確かに、字が上手いことに越したことはない。しかし、字が上手いというのは書道において、それほど重要ではない。大事なのは表現であり、絵画で言えば、タッチよりも絵全体の表現と言えれば分かりやすいと思う。次に、

「書道って習字とどう違うの？」

書道を学んでいると話すとこのような言葉を問うとして出されることがよくある。そして、義務教育で習字（書写）を学んでいない方は特別な場合を抜きにすれば、ほとんどいないと思う。簡単に言ってしまうと、習字は文字を正しく整えて書くことを目的としており、表現の仕方などはない。また、字を正しく整えて書くということであって、字が上手くなるためにするのではないということ。あくまでも、字の書き方、形を覚えるものである。

一方、書道はそれに加え、芸術として、文化の理解として、個性美の表現とするものである。また、書道は単一の芸術としてではなく、日本では特に華道や茶道などと一つになることにより輝きを増すわけだ。

書道の精神と役割

さて、書道の良さばかりを綴ってしまいましたが、書道の本質とはなんであるか。『道』と

付くからには柔道や剣道、華道、茶道などの類であるのは明白である。『道』の本質は、学習過程で、人格を練磨し、情操を醇化していくという人間修養・精神修養を目的とする。

従い、書道も同様に人間修養・精神修養を基礎とし、その基礎の上に、先に述べた個性美の表現をするというものである。

しかし、このことをいつも想い、生活している人は殆どいないだろう。従い、あまり深く構えてしまう必要はない。

さて、書道の役割であるが、漢字はその発生以来、目的に従って、正確に能動的に工夫が加えられ、各種の書体が生まれた。その書体こそが、楷書・行書・草書・隸書・篆書の五體に分けられ現在まで続いてきた書体である。詳しくは次節に託すとして、この五體により様々な文字生活を我々は送っている。様々な形へと変化をしてきた文字により生活の空間が豊かになっているのは言うまでもない。

そして、二千年以上も歴史を持っている書とそれを活用し、命を与えてきた書道は理性的で、美しいだけでなく、見る人の精神をも豊かにする役割があるのではないだろうか。

書道用具について

簡単ではありますが書道とはどういうものかというものを記述した。ここからは、実際に書道を行うには何が必要なかを紹介していこうと思う。

まず、書道を行う上で最低限必要になる用具は筆、墨、硯、紙である。この用具を文房四宝と呼ぶ。他に毛氈と呼ばれる下敷き及び紙を押さえるために必要な文鎮がある、実際は無くても無理矢理書こうと思えば書ける。しかし、先の4つ同様に必ず必要な道具の一つと考えてよ

影向

特集

東日本大震災における
東北の書道現状

ぶらり街散歩 ～書体を巡って～

王羲之の再考

お勧め書道用具店 横浜～町田編

書道を知りたい人に勧める本

書体 News Watch!



東日本大震災 における 東北の書道現状

がんばろう！東北・仙台
StVshop
スタウヴィンショップ
221-7358
Produced
by
Studio V
8F美容室

(取材日：2011/5/2～5/4)
仙台駅前 Loft 前にて撮影

このページから C80 に頒布した内容となっております。

本章では震災が訪れた年（2011年5月2日～4日）の間に東北各地およびそれに関係した方々取材したものです。

■爪痕と苦悩

2011年9月に震災より半年が経つ。

筆者がゴールデンウィーク中に被災地を訪れた。福島県新地町の釣師浜に住む70代の女性は、かつて自分が住んでいた家の土台を見ながら震災当時をこのように語ってくれた。

「地震が起きた直後、瓦が落ちて、壁が接がれた。だから、慌てて机の下に避難したのよ。揺れが収まって、外をみたら、自分のところだけ瓦が落ちてる。何かと近所を見て回ってたら、いつも声を交わさないはずのご近所さんに『津波がくる！早く逃げるべ！』といわれて、慌てて車で一緒に逃げた。津波がきてから、役場の一階まで海水がきたけども、2階に逃げて、自分達の家が津波にのみ込まれるのを見ていた。孫の結婚式祝いがバックに入っていたのに……全部太平洋にもっていかれちゃったわ。

でも、あのとき逃げていなければ今頃命は無かったかもしれない。この歳で命が助かってよかったのか分らないけどねえ……」

3.11の東日本大震災の爪痕は今も尚、東北の太平洋沿岸部から関東に向け、約500キロにわたって残っている。

少しずつではあるものの、復興の兆しを見せているが巨大地震の影響は非被災の地域でも、いまだに影響がでている。

■震災の影響

さて、この度の大震災で東北地方の書道事情はどのように変化してしまったのか。

宮城県石巻市の旧雄勝町は、現在復元中の東京駅に用いられる屋根材を手掛けている町である。

また、同様に書道にはなくてはならない硯の名産地でもある。

東京駅に用いられている屋根材の話は、マスコミを通して知れ渡っているものの、硯の名産地であるということは、一般人ではあまり知らないことだろう。

被害は、甚大でインフラの復興すらままならない状態であった。

マトリクスと書道

実践!!
デジタル書道



2012年8月発行 第1号第3巻

デジタル書道
マトリクスと書道
デジタル書道の普及
マトリクスの融合 in 大塚

アナログとデジタルの融合

1940年代に初のデジタルコンピュータが誕生して以来、今日の社会はデジタルコンピュータが無くてはならない存在となっている。コンピュータとアナログ芸術の融合は果たして可能なのだろうか。

近年のデジタルコンピュータ（以降、コンピュータ）の利用は目覚ましい進歩を遂げ、更にインターネットとの組み合わせにより、利用方法やコンピュータ自体の価値が高度化している。

その中で芸術分野でのコンピュータ・インターネットの利用も発展しており、新しい芸術が誕生している。今では一般的な技術となっているコンピュータグラフィック（以降、CG）の発達、コンピュータにおける芸術分野を押し広げた。そもそも、CGの利用は当初3次元（以降、3D）物体の隠面消去や各種表示技法を含むリアルな画像の生成法の研究が主であった^{*1}。それが今では、コンピュータ支援設計のCAD（computer aided design）システムへの応用、科学計算結果の可視化、医療への応用、バーチャルリアリティ（Virtual Reality）、それを応用した拡張現実（Augmented Reality）、スターウォーズやトイ・ストーリーなどエンターテインメント分野への応用と、1960年代前半にCGが誕生してから一気に発展していき、世の中に浸透していった。そのCGが本格的に芸術分野で応用されはじめたのは、1970年後半からである。実写撮影した映画の一部にCG（CGショット）を用い、迫力のあるシーンを作り上げ、当初人々を魅了したのはいうまでもない。

■ フォトレタッチと2DCG

フォトレタッチは、いわゆる写真編集のことであるが、コンピュータを用いたフォトレタッチは以前から存在していた。コンピュータの誕生以前では、フィルム撮影した写真を現像後、

組み合わせたい写真の一部を上手くつなぎ合わせ、あり得ない、ありもしない画を作り出していた。

デジタル化がもたらしたフォトレタッチの発展の歴史はそう古いものではなく、1980年代に専用ワークステーションが誕生した後、1980年代後半以降には数多くのフォトレタッチソフトが開発・販売された。その中で、フォトレタッチソフトの市場をほぼ独占したのは、有名なAdobe社のPhotoShopだ^{*2}。

Adobe社のPhotoShopは現在CS6までバージョンアップされ、多くのクリエイターやビジネスユーザに用いられている。そんなPhotoShopの原型の誕生は1987年のことである。原型となる『Display』というソフトは、モノクロのディスプレイにグレースケール画像を表示させることを目的とし、当時ミネソタ大学博士在籍中であったThomas Knoll（トーマス・ノール）氏によって開発された。その後、1990年にAdobe社がライセンスを取得し、Adobe PhotoShop 1.0が発売された。このときの機能はカラー補正やトーンカーブ、レベル補正、キズ等を修正・削除するためのスタンプツールと、フォトレタッチソフトとしての最小限の機能を搭載したソフトであった。その後、バージョンを重ねていくにつれてペンツール、パス機能、PhotoShop3.0では現在のフォトレタッチソフトの主流となっているレイヤー機能が追加され、編集・操作性が格段に向上した。

今日、写真編集といったらフォトレタッチソフトは必要不可欠である。しかし、コンピュータ上での繊細な作画するにはフォトレタッチは不向きである。その弱点を補うかのように作画

*1 Apple II x /II-FXがDTP/デザイン業界で普及し、パソコン上で動作する3DCGソフト（Vision、PLAYMATIONなど）が開発・発売された。ただし、一枚の画像計算に1週間程度かかり、当時は実用的とは言い難いものであった。

*2 PhotoShopは1990年2月に1.0を発売。当時はMacintosh版のみの販売であった。Windows版の発売は3.0からである。